

お二人とも車種やスペックなどクルマには詳しくないという。また宮本さんは生物系、西さんは工学系の大学院に進みたいとのこと。このために学中にマイカー取得の予定はなく、就職後にクルマを使うという具体的なビジョンもまだないそう。ではクルマが必要な時にどうするかというと、レンタカーを効果的に活用することになる。「みんなで割り勘すればお得だし、車内でおしゃべりしながらの移動

発し、6時間弱かけて長野へ。スキー場オープンからとことん滑り、とても楽しかったです」という西さん。なかなかの移動距離だが、関西の人がスキーを楽しむいたとなれば最短距離なのかもしれない。宮本さんはというと「父の実家が熊本にあり、昔は年に一回以上クルマで行っていました。でも私、高速道路ではほとんど寝てしまつて、あまり覚えていないんですよね」「珠希はよく車中で寝ていますよ」とすかさず西さんがツッコミを入れる。それでも関門海峡のPAで撮影したという美しい朝日の光景を見せてくれた。



クルマにまつわる思い出を伺うと「子どもの頃から高校時代まで、両親がスキー旅行に連れて行ってくれました。深夜に大阪を出

自由さこそクルマの魅力

部活や旅行にクルマは欠かせないと思います



しい景色、そして人々との出会いを存分に楽しんでいたきたい。そして移動の手段として、友達同士の「ミニケーション」の場としてクルマが存在してくれることは嬉しい限りである。

は楽しいですからね」と西さん。「私は寝てしまわないように、助手席に座るようにしています」と宮本さん。すかさず西さんから「助手席でも寝ていることがありますが、西さんは「寒さや積雪で歩きにくい面もありますが、雪や銀世界って綺麗です」。

長期休暇に合わせ、ドライブやキャンプを企画しているというお二人。今夏は道北旅行を計画しているが、本誌が発売される頃には実現されているだろうか？「旅行となれば公共交通機関よりもクルマを選びますね。荷物を詰めますし、自由に行動できるので、途中で計画を変更して足を伸ばしたりもできますし」と西さん。宮本さんも笑顔で頷く。その自由さこそ車の最大の魅力だろう。

札幌市在住 21歳 西彩花(にしあやかさん)

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17 TEL 011-711-3344
代表：工藤博樹 学校長：佐藤隆幸



充実した施設とカリキュラム、そして夜10時までのロングラン教習が在校生に好評。地下鉄南北線「北24条駅」から徒歩8分にある。学割コースのほか、各種安心プランを充実。AT教習車にはトヨタ教習車を採用していることも特徴のひとつ。教習・検定ともに土・日・祝日も実施。各検定試験の合格率は常にトップクラスを誇る。



職員からひと言

北海道中央自動車学校
教習指導員

鈴木 順さん
(すずき じゅん)

もと接客業だったこともあり、一人ひとりの生徒さんとしっかり向き合うよう心がけています。大学生の生徒さんが多いですが、息子と同世代なのでコミュニケーションはとりやすいですね。

生徒さんにも一般ドライバーの方にもお伝えしたいのは「没頭ではなく集中して運転しましょう」ということ。集中していれば周囲がよく見えますし、他車への気配りも生まれます。冬季間の教習中、雪道にハマってしまったことがあります。操作や脱出方法が学べ、助けてくれる人々の温かみに触れられる、とても良い経験。人はそうした経験を通じて上達していきます。ベテランの方々も初心を忘れず、安全運転をお願いいたします。

運転免許 夢見るカーライフ 第19回



取材・写真／横山聡史 (Lucky Wagon)

「運転できて当たり前前」と思ってたきました

札幌市在住 20歳 宮本 珠希(みやもとたまき)さん



今回取材させていただいたのは札幌市内の同じ大学、同じ学年、同じ部活に所属しているというお二人。ドライブでも仲の良いお二人を同時に取材させていただいたので、ご紹介も一緒にさせていただきます。

お揃いのユニフォームに身を包んだお二人は、クロス部に所属しているという。クロスはそれほどメジャーなスポーツではないが、サッカーに近い大きさのコートで、クロスと呼ばれる先に網の付いたスティックを用いて硬質ゴム製のボールを奪い合う競技。シュートのスピードが時速150kmを超えることもあり、「地上最速のスポーツ」と呼ばれることもあるそう。道内大学にも部活やサークルが存在しており、大会も開催されているという。宮本さんはゴールキーパーで、安全のために防具を着るが、西さんの方はアイガードというゴーグルのような防具だけとか。なかなかハードなスポーツだ。

出身地を伺うと宮本さんは「広島県です」、西さんは「大阪です」。道外出身のお二人が札幌で同じ部活に属しているというのが面白い。すでに厳しい冬を1シーズン経験したが、西さんは「寒さや積雪で歩きにくい面もありますが、雪や銀世界って綺麗です」。

クルマは利便性が高いので、今後も運転したいです



転できたら良いなと思い、取得しました。またまった時間を確保できる学生のうちに取得したかったです」。なるほど周囲の環境によつては「運転するのが当たり前」という気持ちになるようだ。

よね」という。札幌に生まれ育つた身としては非常にユニークな視点だなと思わされる。一方の宮本さんは「冬は大変ですが、湿度が低くて過ごしやすいですよね」と、こちらも嬉しい言葉である。札幌はこのところ蒸したり、夏の最高気温が上がっているように思うが、それでも広島に比べれば過ごしやすいいだそう。

実はお二人とも、今年はじめに北海道中央自動車学校で運転免許を取得した卒業生。部活での移動はもちろん、ドライブや旅行も楽しんでいるという。「清田方面や野幌方面など、クルマ移動が便利です。支笏湖にもドライブに行きました。周囲にマイカーを持っている人はいませんが、先輩や同期がレンタカーを借りてくれて、みんなで移動しています」と宮本さん。免許取得のきっかけを伺うと「両親や親戚などみんな運転しているの、ごく自然に取得しましたね」。西さんは「両親はもちろん、友達にも運転できる人が多いですよ。自分も運転できたら良いなと思い、取得しました。またまった時間を確保できる学生のうちに取得したかったです」。なるほど周囲の環境によつては「運転するのが当たり前」という気持ちになるようだ。